

豊見城城址公園跡地利用基本構想図

(平成25年3月 豊見城市)



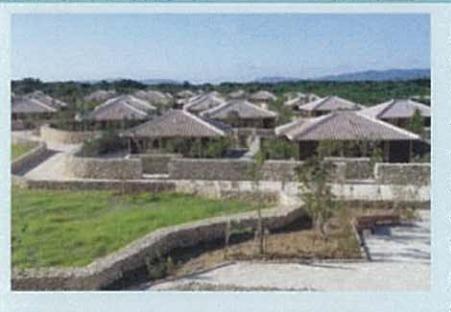
城郭内の整備方法

グスクは城郭及びそのバッファとなる外周部分まで含めて保全の対象とする。城壁は復元を基本とし、歴史復元と推定復元の箇所を区別しながら進める。城郭内は広場整備が基本だが、他のグスクと比べて広いため、グスクの雰囲気を壊さない範囲で、別の機能(イベント広場、展望台、キッズキャンプ場、市民農園等)を導入することも検討される。



グスクガイダンス施設

グスクの入口付近に完成予想ジオラマ等を展示したガイダンス施設を設ける。



民間ホテル

空手道会館の雰囲気とマッチする宿泊施設を整備する。竹富島の「星のや」のような低層施設が景観と調和し、海外からの利用者等に空手の総本山としてのイメージを訴えかける。もしくは客室数の少ないラグジュアリーホテルとしての展開も考えられる。



体験学習センター

空手道会館の雰囲気とマッチした緑地・広場の中に、体験学習・観光交流に資する施設を整備する。イメージとして恩納村の「ふれあい体験学習センター」のような施設が挙げられる。



空手道会館

平坦で、展望もよい場所にあたり、空手道会館の候補地である。会館は低層で整備されると予想され、見晴らしを確保するために周囲に他の高い建物はなるべく配置しないように調整する。



城壁の復元

豊見城グスクの城壁は、往時の地形に合わせて城壁がめぐらされていたと考えられ、発掘調査等により往時の地形及び城壁の造構等が発見されれば、推定復元できる可能性が高い。残された写真・映像資料等から、石積みは城門付近が布積み、その他の部分は野面積みであったと想定される。城壁の高さは、発掘調査の結果や活用方策等を考慮して復元する必要がある。



斜面緑地；環境保全・修景

斜面緑地については、現状として良好な緑地帯を形成しており、ラムサール条約登録湿地である漫湖や鳥獣保護区と近接していることから、現状の植生を保全し、自然環境を損なわない範囲で活用することが考えられる。



西原門・豊見瀬御嶽の門

豊見城グスクにあったとされる大きな三つの門の内、西原門あるいは豊見瀬御嶽の門を撮影したとされる写真資料等が複数残されており、発掘調査等により門の位置が判明すれば、城門の高さや意匠について高い精度での復元が可能であると考えられる。

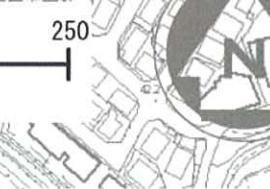
ただし、資料は全て同じ門を撮影したものである可能性もあり、撮影された城門の同定が必要。

南風原門

南風原門と推測される写真等が残されておらず、また場所についても不明瞭である。発掘調査等により南風原門の位置が特定できれば、他の城門の写真を参考に復元できる可能性がある。

城址エリア全体；往時の地形復元

削平段や階路、堀、飛び地郭といった地形は、防衛拠点としてのグスクを理解するために役立つと考えられるため、調査により往時の地形が判明すれば、地形復元等の手法を用いることも考えられる。



*写真はイメージ

(※土地利用構想A.B.C案複合型)

グスク復元の可能性と課題

【参考】可能性と課題

城壁；復元展示 B（推定復元）

遺構：△／資料：○

豊見城グスクの城壁は、戦後には一部が残存している程度であったが、往時の地形に合わせて城壁がめぐらされていたと考えられることから、発掘調査等により往時の地形及び城壁の遺構等が発見されれば、推定復元できる可能性がある。また、地形から考えると二の郭の先端はナワバリ推定図よりも突出していた可能性があり、遺構の発見により城壁のラインの特定も可能となる。

石積みの手法については、米軍撮影の映像から、城門付近は布積み、その他の部分については野面積みと想定される。

城壁の高さについては、遺構の幅から推測できる可能性があることや、城壁を映した写真をもとに推定できる可能性がある。活用の視点からは高台からの眺めを損なわない程度の高さに留めて復元整備を行う手法もある。



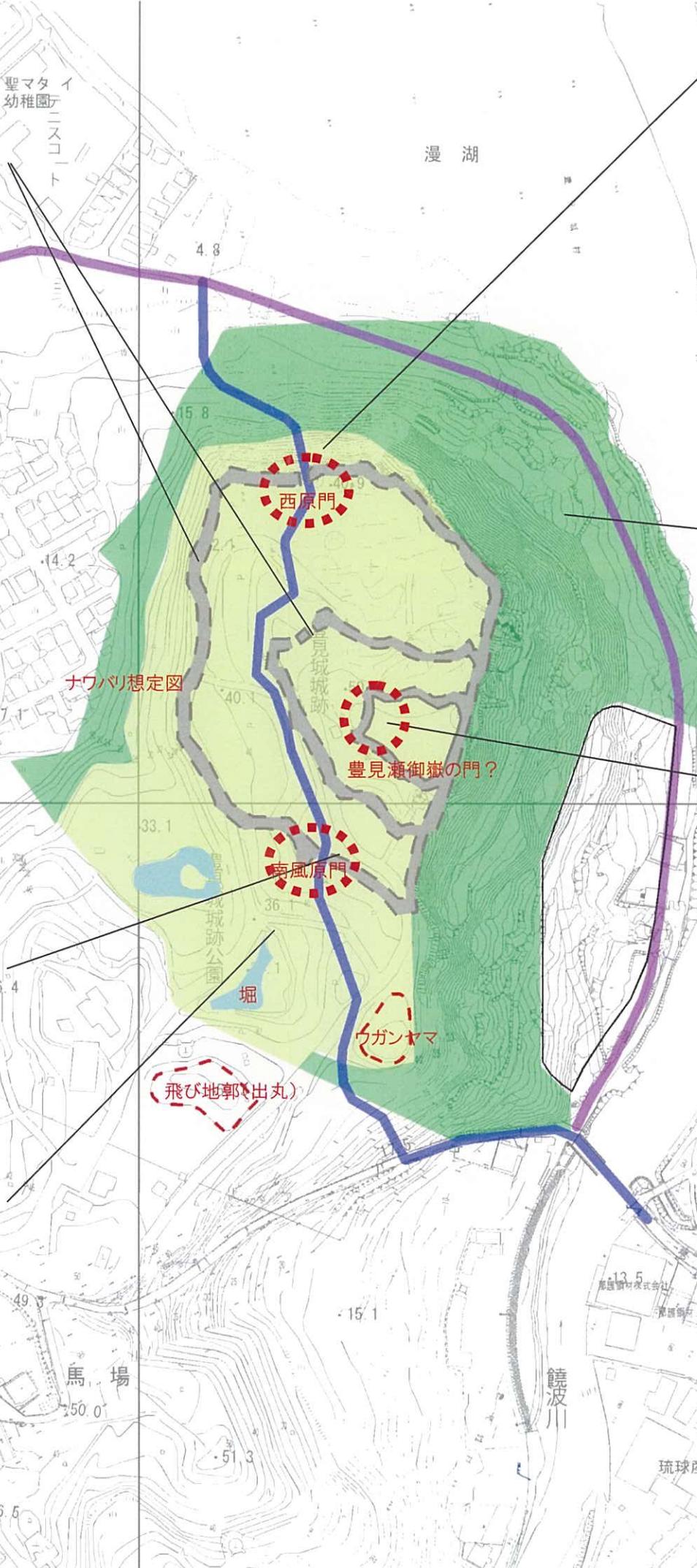
南風原門；参考復元 遺構：△／資料：×

南風原門は南風原門と推測される写真等が残されておらず、また場所についても不明瞭であるが、地下には遺構が残存している可能性がある。発掘調査等により遺構が発見されれば、南風原門の位置の特定及び他の城門の写真を参考に参考復元できる可能性がある。

豊見城

城址エリア全体；往時の地形復元

削平段や隘路、飛び地郭といった地形は、防衛拠点としてのグスクを理解することに役立つと考えられるため、地形復元等の手法を用いることも考えられる。



西原門；復元展示 A（精度の高い復元）

遺構：○／資料：△

グスク内で唯一、遺構と思われる石積が確認できている箇所である。米軍が撮影した映像や森政三・田辺泰撮影の西原門を撮影したと言われている写真が数枚あるが、前述の写真の分析から西原門であるとは特定できなかった。仮に今後特定できれば、高い精度での復元が可能と考えられる。

なお、現在露出している石積が排水による浸食を受けていることが確認できるため、早急な保存措置が必要である。



斜面緑地；環境保全・修景

斜面緑地については、往時の植生の復元は資料不足により難しいことや、なにより現状として良好な緑地帯を形成していること、ラムサール条約登録湿地である漫湖や鳥獣保護区と隣接していること等から、現状の植生を保全し、自然環境を損なわない範囲で活用することが考えられる。

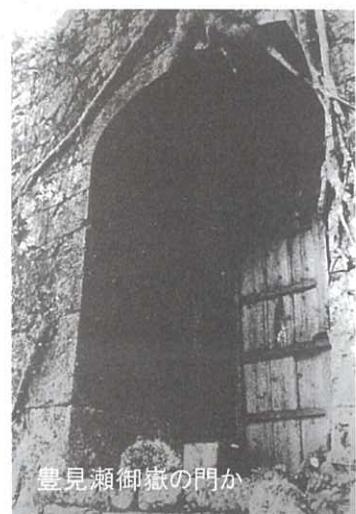
豊見瀬御嶽の門？；復元展示 A

（精度の高い復元）

遺構：△／資料：○

戦後まで門が残存していたことから、地下遺構は良好に残存していると考えられ、かつ米軍撮影の映像や森政三・田辺泰撮影の写真等の都見瀬御嶽の門を撮影したと思われる資料が残されている他、戦前・戦後の状況を知る地域古老からのヒアリングも可能である。

このことから、城壁の高さや意匠、石積みの形等、高い精度での復元が可能と考えられる。



■課題

縄張りの範囲確認調査や遺構の確認等の発掘調査が不可欠である。

城門や城壁を撮影した写真が数枚残されており、撮影位置の同定や撮影された城門の特定、写真等からの高さや奥行き、意匠等の確認が必要である。

また、地域古老が「豊見瀬御嶽の門」と呼ぶ城門が、豊見瀬御嶽だけを囲っていたのか、あるいは一の郭等の城壁と一体化していたのかについても、発掘調査や古老へのヒアリング等により確認する必要がある。

豊見城村立とよみ小学校